

サバ塩焼き弁当 380円 (税込)

近所のスーパーはお弁当が美味しい。

お手頃価格、迷う程の品ぞろえ。でも今日はもう朝からコレと決めてある。

『サバ塩焼き弁当』税込み380円。

本題はここからだ。フタ越しに目を凝らし、“一番脂がのっていそうなもの”を求めた選別がはじまる。切り身の太さ・長さ、焼き目面をひっくり返した姿のイメージが整えば任務完了。良いのがあった。さ、はよ戻って食べよ!・・・

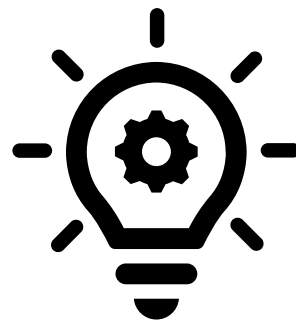
手に取ったそれが『バラバラになった鯖』なんて感覚はない。
でもそのひとつの身は確かに担っていたはずだ、一匹の魚としての「いのち」を。

(合掌)「いただきます」とは、そういうことだ。

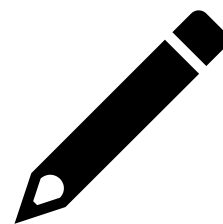
Vo.36

和而不同

いよいよよマスクのルールが変わる。厚労省ホームページによれば、『令和五年三月十三日以降、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることになります』とのことだ▼これまで何かとマスクを着けない人に向けられていた視線が、今後反転してしまうのだろうか。ただ感染予防の観点からは、やはり着用側が困惑する状況だけは避けねばならない▼相手が居る以上、環境にあわせた最低限の配慮は必要だろう。『本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないよう』（同HP）という註釈が印籠代わりとなり、逆効果を生まないことを切に願う▼「服装は自由です」—そんな時ほど周りが気になる。いわゆる一般常識に照らし、できるだけ皆と“似た”トーンを探る。つまり安心の理屈は“同じであること”というわけだ▼「《個人の判断に委ねる》はずが、かえって迎合を生む」という矛盾。それは自ら“同じであること”を「選んで」いるようで、実は「選ばされて」いるだけなのかもしれない▼ルールは、安全や公平の担保である。ゆえに社会という大きな括りの中で、三年にも及ぶ「マスクルール」が撤廃される以上、より個人の選別力—いま何をすべきか—が問われてくるだろう。



きっかけ感話
【超短編】



若院コラム

誰かにとって都合のよい嘘が
世界を変えてしまうことさえある。
だからこそ、なんどでもたしかめよう。

林 木林/作 庄野 ナホコ/絵

『二番目の悪者』

小さい書房 2014



WASHITE DOUZEZU



まるごとココから